

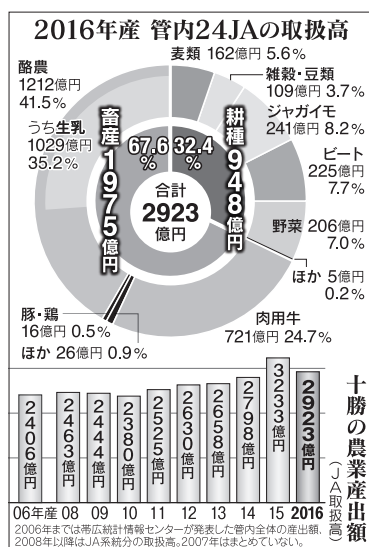
十勝毎日新聞 十勝農業記事ハイライト

2016年 取扱高

2016年産十勝管内 J A 取扱高 2923億円 史上 2 位、
畜産貢献 気象影響で畑作33%減

2016年12月23日

十勝地区農協組合長会と十勝農協連、十勝総合振興局は23日、2016年産農畜産物の十勝管内 JA 取扱高（概算）を発表し、耕種（畑作）と畜産の合計は前年比10%減の2923億円となった。前年実績を下回ったのは6年ぶり。



天候不順や台風被害で耕種は同33%減の948億円だったが、畜産は生乳生産増や子牛価格の上昇などで同8%増の1975億円と過去最高を更新した。耕種の落ち込みを畜産が強く下支えし、3000億円の大台を超えた前年には届かなかったが、過去2番目の高水準となった。

耕種部門は統計が

1212億円。子牛などの取引価格の上昇も後押しした。肉用牛は枝肉価格や素牛取引価格が年間通して高値で推移し、同14%増の721億円となった。

耕種よりも畜産が多い傾向が続いていたが、今年は耕種的不作で、ほぼ2倍の差となった。

金額は管内24JAの取扱見込額の集計。JAを通さない商社系は含まれていない。取扱高は肥料や飼料、資材価格の高止まりもあって農家所得に直結しない面もある。

十勝の経済は落ち込んでいない 有塚会長

同日午前10時から、帯広市内のとちか館で開かれた記者会見で、同組合長会の有塚利宣会長は「どれだけ落ち込むかという雰囲気があったが、集計を見ると十勝の潜在的な力強さが表れた。十勝の経済は落ち込んでいない」と胸を張った。

天候の影響を受けた耕種減収を、畜産の増収がカバーした。耕畜のバランスの取れた構造や、これまでの基盤整備など強い農業作りの取り組みを受け、会見では十勝農業の「底力」や「潜在力」という言葉が出た。十勝農協連の山本勝博会長は「昨年からは落ち込んでいるが生産者は暗くはない。30、40代の挑戦する意欲は旺盛」と述べた。

2016年管内 J A 取扱高 「史上 2 位」も高揚感なく

2016年12月24日

過去2番目に多い2923億円になったと23日に発表された2016年産農畜産物の管内JA取扱高（概算）。台風や長雨で不作だった耕種（畑作）の落ち込みを畜産が下支えた。全体の金額としては高水準となったものの、耕畜ともに好調だった昨年のような高揚感は薄く、受け止め方はさまざま。

畜産 相場高騰 コストは増

畜産は生乳生産量や子牛価格、枝肉価格の上昇などで前年比8%増の1975億円に達した。一方、台風など天候不順に見舞われた畑作は、前年から33%減の948億円。

現在の統計方法となった08年以降、初めて1000億円を下回った。

北海道肉用牛生産者協議会の小倉豊会長（帯広）は「今年は枝肉価格の相場が高く推移してよかった」とする一方「ただ素牛の仕入れ価格も高く、コストも上がった」